

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

6 保健体育

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1
II	「指導と評価の年間計画」(体育) <例>	P 2
III	「評価規準と単元計画」(体育) <例>	P 3～5
IV	「学習指導案」(体育) <例>	P 6～7
V	「指導と評価の年間計画」(保健) <例>	P 8
VI	「評価規準と単元計画」(保健) <例>	P 9～11
VII	「学習指導案」(保健) <例>	P 12

I 「指導と評価の年間計画」「評価規準と単元計画」「学習指導案」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

この「指導と評価の年間計画」では、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まらず、各授業の学習活動のポイント、評価方法、も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」であり、次の内容構成で作成される。

- ①科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。
 - ・科目全体の目標⇒学習指導要領に示す当該科目の目標
 - ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
⇒「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照
- ②領域もしくは単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。
 - ・領域もしくは単元ごとの目標
…学習指導要領に示す当該領域もしくは単元の目標
 - ・領域もしくは単元ごとの評価規準
…領域もしくは単元ごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照
- ③—1【体育編】指導と評価の計画を「単元構造図」化して示す。
 - ・横軸＝単元の学習時間の流れを示す。
 - ・縦軸＝1単位時間の流れを示す。
 - ・横軸と縦軸を考えながら、学習内容をはめ込む。
 - ・学習内容は、学習指導要領「技能の例示」と「思考・判断の例示」を参照する。
 - ・4観点の評価内容や評価のタイミングを単元構造図の下部に示す。
- ③—2【保健編】指導と評価の計画を1時間ごとに「ねらい・学習活動」「評価規準」「評価の方法」で示す。
 - ・1時間の中には必ず「ねらい」を明示して、太枠で囲む。
 - ・1時間の学習活動をより具体化して明示する。
 - ・3観点の評価内容は具体的評価規準を参照し、評価方法や時期も明示する。

3 「学習指導案」について（例）

ねらい（目標）が明確で、一貫性のある指導案が望ましい。そのためには、生徒の実態を正しく捉え、目指す生徒の姿をイメージして、その達成のための教材教具を用意し、指導方法を選択していく。そして、その評価を行って改善へとつなげていく。

- ①—1【体育編】
 - ・前半の部分には「教材感」「クラス感」「指導感」などを挿入してもよい。
 - ・前半の部分に必ず「単元目標」「本時の目標」「本時の評価規準」を明示する。
 - ・後半の部分は「学習項目」「学習活動」「指導上の留意点・観点別評価」を明示する。
 - ・評価の内容や質問と回答例を盛り込む。
- ①—2【保健編】
 - ・「学習内容と学習活動」「学習形態」「教師の指導・支援」「評価規準と方法」を明示する。
 - ・一番初めに「ねらい」を明示して、本時の目標と学習内容を盛り込む。
 - ・質問事項や予想される回答例を盛り込む。
 - ・学習内容に応じて学習形態を明示する。

II 指導と評価の年間計画(体育) <例>

科目名：体育（2年男子：2単位）

岐阜県立〇〇高等学校

目 標 【学習指導要領】		●運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
到達目標に向けての 具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた 指導の上の留意点】		●運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持たせ主体的に取り組ませる。 ●生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫させたり、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫させる。 ●運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けさせる。 ●選択した運動の技術（技）の名称や行い方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解させる。		
月	使用教科書項目	時	主な評価規準等	評価方法
4月	体育の授業ガイダンス	1	●体育の学習内容及び学習方法について確認する。	アンケート実施
	体づくり運動 (体ほぐしの運動) (体力を高める運動)	7	●体づくり運動の学習に主体的に取り組む。 ●体ほぐしのねらいや体力を高める運動の考え方を踏まえて、継続しやすい体づくり運動の計画を立てる。 ●体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、理解したことを言ったり書き出す。	行動観察 ノート確認 学習カード確認 自己評価表の確認
5月	選 択 陸上競技 (ハードル走)	9	●陸上競技の学習に主体的に取り組む。 ●課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す。 ●ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに超すことができる。 ●競技会の仕方について、学習した具体例を挙げる。	行動観察 ノート確認 自己評価表確認 学習カード確認 記録会・試合分析
	選 択 武道 (柔道)		●柔道の学習に主体的に取り組む。 ●練習や試合の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶ。 ●得意技や連絡技・変化技のいずれかができる。 ●審判の方法について、学習した具体例を挙げる。	
6月	選 択 バレーボール	12	●バレーボールの学習に主体的に取り組む。 ●チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。 ●ポジションに応じたボール操作や、空いた場所をねらうなどの状況に応じたボール操作ができる。 ●課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	行動観察 ノート確認 学習カード確認 ゲーム分析
	選 択 テニス		●テニスの学習に主体的に取り組む。 ●課題解決の過程を踏まえて、取り組んできた自己の目標と成果を検証し、課題を見直す。 ●安定したラケットの操作とペア（ダブルス）で連携した動きができる ●課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	
7月	体育理論	3	●運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、（事例などを用いたディスカッションや課題学習などの）活動を通して、学習に主体的に取り組む。 ●運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明する。 ●運動やスポーツの技術と技能について、理解したことを言ったり書き出す。	発言 ノート確認 成果物確認
9月	ソフトボール	12	●役割を積極的に引き受け自己の責任を果たす。 ●これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定する。 ●ベースボール型では、攻防を展開するための状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの動きができる。 ●技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げる。	行動観察 ノート確認 学習カード確認 ゲーム分析
10月				
11月	選 択 バスケット ボール	12	●バスケットボールの学習に主体的に取り組む。 ●これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 ●制限区域内への侵入などから攻防を展開するためのボール操作と、空間を埋めるなどの動きができる。 ●課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	行動観察 ノート確認 学習カード確認 ゲーム分析
	選 択 サッカー		●サッカーの学習に主体的に取り組む。 ●チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ●ペナルティエリア内への侵入などから攻防を展開するためのボール操作と、空間を埋めるなどの動きができる。 ●課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	
12月	体育理論	3	●運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、（事例などを用いたディスカッションや課題学習などの）活動を通して、学習に主体的に取り組む。 ●運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明する。 ●運動やスポーツの技術と技能について、理解したことを言ったり書き出し出す。	発言 ノート確認 成果物確認
1月 2・3月	陸上競技 (長距離走)	10	●陸上競技の学習に主体的に取り組む。 ●これまでの学習を踏まえて、自己や仲間の挑戦する課題を設定する。 ●長距離走では、ペースの変化に対応するなどして走ることができる。 ●陸上競技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げる。	行動観察 ノート確認 学習カード確認 記録会分析
	授業評価 (体育の授業を終えて)		1	
合計時間数		70		

Ⅲ 評価規準と単元計画（体育）〈例〉

1 「体育」の目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 「体育」の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
◆運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	◆生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	◆運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	◆選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

3 単元目標 領域名「球技（ゴール型）」 単元名「サッカー」

【技能】

次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。

【態度】

球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする事、合意形成に貢献しようとする事などや健康・安全を確保することができるようにする。

【知識、思考・判断】

技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

4 「サッカー」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
◆サッカーの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについて話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	◆生涯にわたってサッカーを楽しみ、実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	◆サッカーの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	◆サッカーの技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。

5 「サッカー」の具体的評価規準（●数字は入学年次・○数字はそれ以降の年次）

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>①健康・安全を確保している。</p> <p>②サッカーに関心をもつとともに、学習を主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③プレイやジャッジに対して公正な態度を大切にしようとしている。</p> <p>①役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</p> <p>②仲間からの助言を素直に受け入れて、取り組もうとしている。</p> <p>③チームの課題解決のために、積極的に意見を出して高め合おうとしている。</p>	<p>①自分やチームの特徴を踏まえた練習方法を選んでいる。</p> <p>②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</p> <p>①これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。</p> <p>②課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。</p> <p>③作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p>	<p>①パスやボールコントロールなどの基本的技能を身に付けた動きができる。</p> <p>②狙ったところに強いシュートを打つことができる。</p> <p>③空間を作り出す動きができる。</p> <p>①相手DFを意識したドリブルをすることができる。</p> <p>②効果的なパスと、そのボールを奪う攻防ができる。</p> <p>③セットプレイからの攻撃と、シュートを打たれない空間にボールをクリアする攻防ができる。</p> <p>④選択した戦術・作戦に応じた技能をゲームで発揮することができる。</p>	<p>①サッカーに関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②サッカーの技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>①課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</p> <p>②ゲームやリーグ戦の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ルールや審判の方法について、学習した具体例を挙げている。</p>

Ⅳ 学習指導案 (教科：保健体育 科目：体育)

日 時	平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇限	指 導 者	〇〇〇〇
指導クラス	2年〇組 (〇〇科) 40名	使用教室	本校グラウンド
単 元 名	球技 (ゴール型：サッカー)	使用教材	ゴール1対・ボール20個 作戦版4枚・マーカー20枚 ビブス40枚
教 材 観	<p>サッカーは、ドリブルやパスなどのボール操作を行い、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゴール型の運動である。</p> <p>また、絶えず動きながらプレイしなければならないので、ボール操作と、状況を判断する能力が必要となる。</p> <p>1点を奪うために、個人技能を高め、チームとして作戦を立てるなかで、仲間と協力する態度を身に付けたり、課題解決の方法を学んだりできる教材でもある。</p>		
単 元 目 標	<p>①状況に応じたパスやシュートなどのボール操作とスペースを埋めるなどの連携した動きによってスペースへの侵入などから攻防することができる。</p> <p>②運動に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、健康・安全を確保することができるようにする。</p> <p>③技術などの名称や行い方、課題解決の方法、練習の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた取り組み方を工夫できるようにする。</p>		
単元で学ぶ技能の例示	<p>【ボール操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。 ●味方が作りだした空間にパスを送ること。 ●ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ●守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすること。 ●シュートを打たれない空間にボールをクリアーすること。 <p>【ボールを持たない時の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動すること。 ●シュートしたり、パスを受けたりするために味方が作りだした空間に移動すること。 ●ボール保持者がプレイしやすい空間を作りだすために、必要な場所に留まったり、移動したりすること。 ●スクリーンプレイやポストプレイなどの味方が侵入する空間を作りだす動きをすること。 ●得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすること。 ●チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすること。 ●味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすること。 ●一定のエリアからシュートを打ちにくい空間に相手や相手のボールを追い出す守備の動きをすること。 		
本時の目標	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本時の位置 7 / 12</div> <p>①攻撃では、味方と動きを連動させスルーパスを成功させよう。</p> <p>②守備では、良いポジションから相手のパスをインターセプトしよう。</p>		
本時の評価規準	<p>【運動の技能 (評価規準の運動技能の②)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●効果的なパスを通すことと、そのボールを連携して奪う攻防ができる。 		

本 時 の 展 開 (太枠内は評価規準・二重線枠内は質問と予想される回答)

時間	学 習 項 目	学 習 活 動 (●：生徒の活動)	指導上の留意点・観点別評価 (■：教師の指示・説明)
導 入 5 分	○集合・挨拶 ○出席確認と健康チェック ○本時の説明	●チームごとに集合整列 ●大きな声で挨拶する。 ●本時の目標と学習内容を理解する。	■健康状態を確認させる。 ■あらかじめビブスを着用させる。 ■目標と授業の流れを明確に伝える。
展 開 40 分	○準備運動等 ○パス&コントロール ○4対2からスルーパスの練習 ○全体ミーティング ○6対6のゲーム (GKをつける) ○グループミーティング	●準備体操を行う。 ●2人1組のストレッチを行う。 ●補強運動を行う。 ●チーム(10人ずつ)ごとに行う。 ●20mの直線上で行う。 ●6人1組をつくる。 ●20m×10mのグリッドで行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問 スルーパスでギャップを通すと、なぜ効果的なのか？</div> ●6対6でのゲームを行う。 ●40m×30mのグリッドで行う。 ●キャプテンはポジションを指示する。 ●GKもゲームに加わる。 ●ポジションを見直す。 ●次回の課題を設定する。	■自分の体調を確認させながら行わせる。 ■サッカーに必要なストレッチの種類をあらかじめ明示する。 ■怪我防止と基礎体力向上のために正確に行わせる。 ■近距離のパスの精度とボールコントロールの感覚の習得を目指させる。 ■リズムカルな動きが継続できるようにさせる。 ■徐々に素早いパス回しができるようフットワークを意識させる。 ■2人のDFの間を狙ったスルーパスをより多く出させる。 ■2人のDFは互いに連携してパスをインターセプトさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">回答例 一本のパスで一度に2人のプレイヤーの背後をつくことができるから。</div> ■OFは指示を出し合って、スペースを有効に活用させる。 ■2人のDFの間を狙ったスルーパスを多く出させる。 ■DFは互いに連携して、相手のボールをインターセプトさせる。 ■GKは積極的に守備者にポジショニングの指示を与える。 ■スルーパスの成功やインターセプトの成功をその場で誉める。 ■試合展開により作戦を変更させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">OF：スルーパスなどの効果的なパスを出すことができる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">DF：味方と連携して、パスをインターセプトができる。</div> ■ゲームの反省点を指摘させる。 ■作戦板を使って試合内容を検証して、意見交換させる。
整 理 5 分	○整理運動 ○全体ミーティング ○本時のまとめ ○挨拶	●整理運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問 どんなことを意識したらパスを通りやすかったか？</div>	■怪我がないか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">回答例 指示の声・アイコンタクト・正確なパス・落ち着いたトラップ・スペースへの移動、仲間との連動</div> ■作戦板を使用して、OFが成功したスルーパスを説明する。 ■作戦板を使用して、DFが連携してパスカットできた場面を説明する。 ■次の時間の課題を提示する。

V 指導と評価の年間計画(保健) <例>

科目名: 保健(1年生)

岐阜県立 ○○ 高等学校

目 標 【学習指導要領】	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。			関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解		
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 一斉授業だけでなく、ペアで意見を交換させたり、付箋を使って話し合わせたり、ホワイトボードを使って話し合わせたりして、考えを深めさせる。 教師の説明だけでなく、生徒に説明させたり、立場を決めて討論させたり、制作物を使って発表させたりして、互いに尊重し合って話し合わせる。 板書をノートに書かせるだけでなく、レポートにまとめさせたり、新聞にまとめさせたり、ICTを活用させたりして、情報を整理・分析し論理的にまとめて表現させる。 定期的にノート点検、課題提出などを行い、生徒の習熟状況を把握する。 							
月	単元名	学習内容	時 間	主な学習活動(指導内容)	評価方法			
4月	ア 健康の考え方	保健の授業ガイダンス	1	保健の学習内容及び学習方法について	行動観察 制作物確認 ノート確認 レポート確認	○	○	○
		国民の健康水準と疾病構造の変化	4	・死亡率、平均寿命、受療率などの指標を取り上げ、健康水準が向上してきたことや疾病構造が変化してきたことを理解する。				
		健康の考え方と成り立ち		・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、健康の考え方が変化してきていることや、免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響して健康が成立していることについて理解する。				
		健康に関する意思決定や行動選択		・健康を保持増進するには、適切な意志決定や行動選択が必要であり、適切な意志決定や行動選択を行うには、十分に情報を集め、思考・判断すること、行動に当たっては自分なりの計画・評価を行うことが重要であることを理解する。				
5月	イ 健康の保持増進と 疾病の予防	健康に関する環境づくり	4	・健康を保持増進するには、環境づくりが重要であり、健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることを理解する。	○	○	○	
		生活習慣病と日常の生活行動		・生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げ、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解する。				
6月	ウ 精神の健康	喫煙、飲酒と健康	8	・喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となる上に、周囲の人々や胎児への影響もあるため、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解する。	行動観察 制作物確認 ノート確認 レポート確認	○	○	○
		薬物乱用と健康		・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚せい剤、大麻などの薬物乱用は、決して行ってはならないということや、薬物乱用を防止するためには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成、及び法的な規制などの社会環境への対策が必要であることを理解する。				
		感染症とその予防		・感染症は、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、エイズ、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解する。				
8・9月	ウ 精神の健康	欲求と適応機制	4	・人間には様々な欲求があり、欲求が満たされない時には、不安、緊張、悩みなどの精神の変化が現れるとともに、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすることを理解する。	○	○	○	
		心身の相関		・人間の精神と身体は、自律神経系及び内分泌系の器官によって密接に関連しており、身体的変化が精神に及ぼす影響と精神的变化が身体に及ぼす影響との両面から理解する。				
		前期期末考査	1		期末考査			○
10月	ウ 精神の健康	ストレスへの対処	4	・人間が生きていく上で、ストレスを感じることは自然なことであり、また、適度なストレスは精神発達に必要なものであるが、過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすことがあることを理解する。	○	○	○	
		自己実現		・人間の欲求の高次なものの一つとして、自分自身を高め、もてる力を最大限に発揮したいという自己実現の欲求があり、また、その充足が精神の健康と深くかかわっていることを理解する。				
11月	エ 交通安全	交通事故の現状	6	・我が国における道路交通事故の状況を知り、具体的な事例を適宜取り上げ、事故には、車両の特性、当事者の行動や規範を守る意識、周囲の環境などが関連していることを理解できるようにする。	行動観察 制作物確認 ノート確認 レポート確認	○	○	○
		交通社会に必要な資質と責任		・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること及び個人の適切な行動が必要であることを理解できるようにする。				
12月		安全な社会づくり		・事故のない安全な社会づくりには、環境の整備が重要であり、特に交通事故を防止するには、法的な整備、施設設備の充実、車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解できるようにする。	○	○	○	
1月	オ 応急手当	応急手当の意義	6	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解する。	○	○	○	
		日常的な応急手当		・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の手順や方法があることを実習を通して理解できるようにする。				
		心肺蘇生法		・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用が必要であることを理解する。				
2・3月		学年末考査	1		学年末考査			○
合計時間数			35					

VI 評価規準と単元計画（保健）〈例〉

1 「保健」の目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 「保健」の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
◆現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	◆現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	◆現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 単元目標 「現代社会と健康（交通安全）」

ア 交通事故の現状、交通社会に必要な資質と責任及び安全な社会づくりに関する資料を探したり、見たり、読んだり、課題の解決に向けて話し合いや意見交換をしたりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

イ 交通事故の現状、交通社会に必要な資質と責任及び安全な社会づくりに関する資料等で調べたことを基に課題を整理したり、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したりするなどし、筋道を立ててそれらを説明できるようにする。

ウ 交通事故を防止するには、車両の特徴の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などが関わること、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できるようにする。

4 「現代社会と健康」の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	◆現代社会と健康については、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	◆現代社会と健康について健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表している。	◆現代社会と健康について、健康の保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。

5 「現代社会と健康（交通安全）」の具体的評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
学習活動に即した評価規準	<p>①交通事故の現状、交通社会に必要な資質と責任について、資料を見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②安全な社会づくりについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①交通社会に必要な資質と責任について、交通事故の現状を踏まえ、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。</p> <p>②交通事故や自然災害などにより障害がない安全な社会づくりについて、その対策等を、これまでの自分の行動や自分の住んでいる地域の事例と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>①交通事故には、車両の特性、当事者の意識や行動、周囲の環境が関連していることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>②交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や車両の特性の把握、個人の適切な行動が必要であること及び交通事故には責任や補償問題が生じていることについて、理解したことを記述している。</p> <p>③安全な社会づくりには、環境の整備が重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>

6 指導と評価の計画（4時間）

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		関心意欲態度	思考判断	知識理解	
1 交通事故の現状	<p>(ねらい) 我が国の交通事故の状況を知り、事故には、車両の特性、当事者の行動や規範を守る意識、周囲の環境などが関連していることを理解できるようにする。</p> <p>(学習活動)</p> <p>1 我が国の交通事故の発生状況について、統計資料から近年の傾向を調べる。</p> <p>2 年齢階級別に見た交通死亡事故者の状態別死者数の資料から、若者と高齢者の交通事故の特徴について調べる。</p> <p>3 交通事故の具体的な事例から、その要因について挙げグループで話し合う。</p> <p>4 交通事故が発生する要因を当事者、車両、環境の3つの要因を分類し、整理する。</p> <p>5 交通事故の現状と要因について発表し、まとめる。</p>	①			観察
				①	ワークシート 観察

<p>2</p> <p>交通社会で必要な資質と責任①</p>	<p>(ねらい) 交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること及び個人の適切な行動が必要なことを理解できるようにする。</p>	<p>(学習活動)</p> <p>1 自分の体験した事故や事故になりそうな事例を挙げ、その時の心身の状態や行動について振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>2 違反別交通事故の統計などの資料から運転者の規範意識の欠如が引き起こす危険運転について考える。</p> <p>3 運転者に必要な資質について記述する。</p> <p>4 グループで発表し、まとめる。</p>				<p>② 観察 ワークシート</p>
<p>3</p> <p>交通社会で必要な資質と責任②</p>	<p>(ねらい) 交通事故には責任や補償が生じることを理解し、近い将来、運転者として交通社会の一員となることを考慮し、加害事故を起こさないことが重要であることを理解できるようにする。</p>	<p>(学習活動)</p> <p>1 交通事故を起こした場合、社会的にどのような責任を負うことになるのか調べる。</p> <p>2 交通事故を起こした場合の補償の事例と保険について調べ、社会的に負う責任の視点で意見交換する。</p> <p>3 交通事故を起こした場合、社会的責任以外にどんな責任があるのか考える。</p> <p>4 運転者としての責任について、グループで話し合い、まとめる。</p>		<p>①</p>	<p>②</p>	<p>観察 ワークシート</p>
<p>4</p> <p>安全な社会づくり</p>	<p>(ねらい) 安全な社会づくりには、環境の整備が重要であり、特に交通事故を防止するには、法的な整備、施設設備の充実、車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解できるようにする。</p>	<p>(学習活動)</p> <p>1 近年、我が国の交通事故が減少している要因や背景についてグループで話し合う。</p> <p>2 我が国で行われている様々な交通安全に関する社会的な対策について調べ、整理する。</p> <p>3 より安全な交通社会を実現するためには、さらにどのような対策をすればいいのか考える。</p> <p>4 交通事故のない安全な社会づくりについて理解したことを発表し、まとめる。</p>	<p>②</p>			<p>観察 ワークシート 観察</p>

Ⅶ 学習指導案例

単元名	「現代社会と健康（交通事故 4 安全な社会づくり）」
本時の目標	●事故のない安全な社会づくりには、環境の整備が重要であり、特に交通事故を防止するには、法的な整備、施設設備の充実、車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解できるようにする。

段階	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価規準と方法
2 導入	①教師の説明により、本時の目標と学習内容の確認をする。	・前時の振り返りをし、本時の目標と学習内容を提示する。	

【板書】安全な社会づくりには、環境の整備が重要であり、特に交通事故を防止するには、法的な整備、施設設備の充実、車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解できるようにする。

展 開 4 0 分	<p>発問1 交通事故を防ぐための「法的な整備」にはどんなものがあるか。</p>	<p>【自動車】 最高速度制限 酒気帯び運転禁止 無免許運転禁止…等</p>	<p>【自転車】 二人乗り禁止 携帯電話使用禁止 無灯火運転禁止…等</p>	<p>【関心・意欲・態度の表の①を参照】 【評価方法は観察で行う】</p>
	<p>②発問1に対し、ペアで出された意見をワークシートの書き出す。</p> <p>③発問1に対し、ワークシートに書き出した内容について、友達の発表や教師の説明を聞きながら確かめる。</p>	<p>・家族が車を運転している時や自分が自転車を運転する時に注意していることを思い出させる。</p> <p>・自分の考えと比較したり、関係を見付けたりして確かめるよう助言する。</p>		
	<p>発問2 自分の通学路上で、交通事故を減らす施設設備にはどんなものがあるか。</p>	<p>回答例 ・信号機 ・標識 ・歩道橋 ・縁石 ・横断歩道 ・カーブミラー ・遮断機 ・立体交差 ・コミュニティ道路…等</p>		
	<p>④発問2に対し、グループを作り、徒歩通学・自転車通学・公共交通機関通学の観点から意見を出す。</p> <p>⑤発問2に対し、昔からある施設設備と新しく作られた施設設備という観点から発言する。</p>	<p>・より多くの生徒から広い視野で発言させる。</p> <p>・新しく施設設備を作る必要性が生じた理由等を説明する。</p>		
	<p>発問3 自動車において、安全面の対策例にはどんなものがあるか。</p>	<p>回答例 ・エアバッグ ・衝撃吸収バンパー ・衝撃吸収ボディ ・衝突防止システム ・シートベルト ・アンチロックブレーキシステム…等</p>		
	<p>⑥発問3に対し、事故を減らす機能と事故を軽減させる機能の面から発言する。</p>	<p>・これらのシステムの効果で、年々交通事故死者数が減少していることを説明する。</p>		
	<p>発問4 登下校時により安全な通学路を実現するには、さらにどんな対策をすればよいのか。</p>	<p>回答例 ・ガードレールの増設 ・LED注意喚起表示板の設置 ・クランクの設置 ・最高速度規制 ・事故危険個所の周知…等</p>		<p>【思考・判断の表の②と知識・理解の表の③を参照】 【評価方法はワークシートや発言で行う】</p>
	<p>⑦発問4に対し、本時の学習内容を踏まえ、どのような対策があれば自分たちの身を守ることができるのかをワークシートに記述した後に、発言をする。</p>	<p>・独創的なアイデアも大切にしながら、活発な発言を求める。</p> <p>・一方、施設設備の充実だけでは自分たちの安全を守れないことを説明する。</p>		
3 整理	<p>⑧まずは自分たちにできる安全対策を確認し、今日からの登下校に生かすと同時に、将来のドライバーとしての知識をまとめる。</p>	<p>・自分たちの行動面ももう一度見直させ、自動車側と歩行者側でトータル的に事故を減らすことを考えさせる。</p>		